

瀬戸際の実情

あなた
の力で

救える命

今、命を救う意識が学校や地域に広がっています。大切な人が倒れたとき、あなたは助けることができますか。危険にさらされた命を救うには、そばにいるあなたの処置が必要です。勇気を持って行動すれば、救える命があることをあなたに知ってほしいのです。(9ページまで)

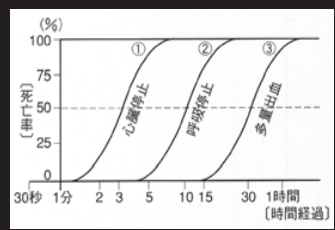


リミットは4分間

家族や友人が倒れ、意識も呼吸もない。一刻を争う危険な状態。そのときあなたは どうしますか。

心肺停止状態に陥った時間が長ければ長くなるほど、倒れた人が蘇生できる可能性は急激に減少します。(左図)人の体の中で、特に弱いのは脳です。心臓が止まってから約3〜4分で脳細胞は壊れ始めるため、心肺停止から4分以内に救命処置をしなければ、正常な状態で蘇生するのは難しいといわれています。タイムリミットは、わずか4分間。大切な人の命を救う

カーラーの救命曲線



心臓停止など症状別に何分ほどで命が助からないかを表したグラフ。フランスの救急専門医カーラー氏が報告したもので、救命処置の必要性を示す根拠となっています。

ためには、一秒でも早い救命処置が必要です。

間に合えない救急

「すぐに救急車を呼べばいい」、「病院に到着しさえすれば大丈夫」。そう考える方もいることでしょう。

119番通報を受けてから救急車が現場に到着するまでの時間は、県内平均で約7分。広い久慈管内は平均8.2分で、さらに時間が必要です。救急隊員は24時間いつでも出動要請に対応できるように準備をしています。しかし、どんなに準備をし、どんなに急いだとしても、命のタイムリミットである4分以内に、間に合うことはできません。

救命の切実な訴え

久慈消防署の泉田将行救急救命士は訴えます。



泉田将行救急救命士

処置がなければ命の可能性はほぼゼロに

「呼吸が止まってから3〜4分が勝負。救急隊の到着前に、皆さんに処置を始めてもらわないと社会復帰の可能性はほぼゼロです。命を救うため、皆さんの協力をお願いします。」
地域の中核病院として、毎日多くの患者に手を尽くしている久慈病院。皆川幸洋救命救急科長も、思いは同じです。「心肺停止に陥った原因にもよりますが、現場に居合わせた人が処置をした場合と、しない場合では、救命率が大きく違います。なるべく早く



皆川幸洋救命救急科長

救命は輪が必要 協力があれば助かる人も

社会復帰できるようにと、患者さんの処置に手を尽くしていますが、現場で処置がされない、どうしても難しい場合があります。救命には「輪」が必要で、現場の人の協力があれば、助かる人も増えると思います。どうか助けてあげたい。救命に携わる2人は切実に訴えます。

希望は現場の処置

大声で叫んでも、懸命に祈っても、危険にさらされた命に「待た」は掛けられませんが、命の希望をつなげられるのは、現場に居合わせた人が行う救命処置です。助かるかどうかの命の瀬戸際。救急隊や病院など、人任せにしているだけでは助からない。残念ながら、これが瀬戸際の実情です。

多くの人がAEDを使った心肺蘇生法を受講しています。上から、夏井小学校(7月6日)、侍浜町振興協議会(7月10日)、宇部小学校(7月7日)、久慈湊十日会(7月10日)、小袖小学校(7月20日)